■ 出品目録

No.	指定 資料(作品)名	員数(法量)	所蔵
	第一章　大坂冬の陣と越前勢		
1	大坂冬御陣之図	1幅(78.0×55.0cm)	当館蔵
2	続片聾記 二	1冊(23.5×15.7cm)	当館蔵
3	大坂冬陣加州長如庵一手陣取之図	1舗(28.7×40.9cm)	金沢市立玉川図書館蔵
4	大坂御陣之節御法度書･直判之写	2通(31.8×79.2cm)(28.2×40.2cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
5	越州御代規録 一	1冊(27.0×17.8cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
6	袖目金 一	1冊(29.5×19.2cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
7	大火縄銃 銘 榎並屋勘左衛門 大てんぐ 十匁弐分	1丁(全長206.6cm)	大阪城天守閣蔵
8	慶元通鑑 四	1冊(26.7×19.2cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
9	稲富流鉄砲伝書(複製)	1帖(25.7×10.6cm)	原本所蔵 大和文華館
10	国事叢記 一	1冊(29.0×19.0cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
11	本多正純書状	1通(31.9×87.8cm)	財団法人藩老本多蔵品館蔵
	第二章　大坂夏の陣図屏風と越前勢の活躍		
12	大坂夏の陣図屏風(複製)	1双(150.3×360.7cm)	大阪城天守閣蔵
13	卯年天王寺表御合戦備図	1幅(79.7×60.9cm)	当館蔵
14	大坂夏御陣之図	1舗(117.0×128.0cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
15	大坂夏の陣図	1舗(120.3×112.7cm)	当館蔵
16	御家譜 二	1冊(28.0×20.0cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
17	本多富正隊陣立図	1幅(71.0×35.6cm)	大阪城天守閣蔵
18	越叟夜話	1冊(27.0×19.9cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
19	越前世譜 第二 忠直様御代	1冊(30.0×19.5cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
20	越前世譜 二	1冊(27.7×17.9cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
21	五月七日於大坂表討捕頭帳	1冊(28.2×20.4cm)	金沢市立玉川図書館蔵
22	松平忠直書状	1通(34.8×50.0cm)	個人蔵
23	大坂御陣首注文之抜書	1通(14.5×18.5cm)	当館蔵
24	○越前兵首取状 巻一･巻三	2巻 1三宅三之丞(31.5×28.7cm) 2西尾三四郎(31.5×45.6cm)	大阪城天守閣蔵
25	越藩史略 三	1冊(27.7×18.6cm)	当館蔵
26	家譜 忠直公	1冊(28.8×20.7cm)	越葵文庫 当館保管
27	茶壺(初花)	1口(口径11.2cm 高34.7cm)	越葵文庫 当館保管
28	◎薙刀直し刀 無銘 名物骨喰藤四郎	1口(刃長58.8cm)	京都豊国神社蔵 京都国立博物館保管
29	脇指 銘(葵紋)以南蛮鉄於武州江戸越前康継 / 骨喰吉光摸	1口(刃長58.2cm)	東京国立博物館蔵
30	脇指 銘(葵紋)以南蛮鉄康継末世剣是也 / 本多飛騨守成重所持内(立葵紋)	1口(刃長38.3cm)	個人蔵
	第三章　真田幸村と松平忠直･忠昌･直政		
31	薙刀 無銘 伝真田幸村所用	1口(刃長65.0cm)	越葵文庫 当館保管
32	采配 伝真田幸村所用	1握(柄長38.0cm)	越葵文庫 当館保管
33	六十二間小星兜 伝真田幸村所用	1頭(鉢径21.9cm 高16.8cm)	京都井伊美術館寄託
34	鉄二枚胴具足 伝真田幸村所用	1領(胴高34.0cm)	大阪城天守閣蔵
35	石造地蔵菩薩立像 通称「真田地蔵」	1躯(像高87.0cm)	当館蔵
36	緋威鉄五枚胴具足 松平忠直大坂陣所用	1領(胴高48.0cm)	京都井伊美術館寄託
37	采配 松平忠直所用	1握(柄31.5cm)	個人蔵
38	黒塗葵葉菊桐紋散蒔絵小箱	1合(24.3×47.0cm 高16.5cm)	個人蔵
39	雉子形変わり兜 秀康･忠直･直政所用	1頭(鉢径23.5cm 高44.8cm)	井伊達也氏蔵
40	采配 松平忠昌拝領	1握(柄36.5cm)	大阪城天守閣蔵
41	十文字槍 銘広正 松平忠昌所用	1口(刃長26.7cm)	越葵文庫 当館保管
42	日月図大軍扇 松平忠昌所用	1握(長54.7cm)	大阪城天守閣蔵
43	紺糸威二枚胴具足 松平忠昌所用	1領(胴高39.5cm)	京都井伊美術館寄託
44	大坂物語 下	1冊(25.5×17.5cm)	大阪城天守閣蔵
45	諸士先祖之記録 一	1冊(31.3×22.8cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
46	忠昌様大坂ニ而御戦功有増	1冊(30.0×19.5cm)	松平文庫 福井県立図書館保管
47	家譜 忠昌公	1冊(28.8×20.7cm)	越葵文庫 当館保管
48	大坂物語 上	1冊(25.5×17.5cm)	大阪城天守閣蔵
	第四章　考古学から見る大坂の陣と大坂城		
49	大坂城址出土資料	56点	大阪府文化財センター蔵

◎は重要文化財　○は大阪市指定文化財

関連展示

「ヒストくんと行く!!時間旅行 ～いざ出陣!大坂の陣～」
日　時：特別展と同じ
場　所：郷土歴史博物館 講堂
内　容：小中学生向けに、大坂の陣や大坂城について面白く、わかりやすく紹介します。
福井大学教育地域科学部の博物館実習生との連携による展示。
観覧料：無料

ギャラリートーク（展示解説）

日 時：10月14日(日)･21日(日)･28日(日)
11月18日(日)
午後２時より40分程度
場 所：館内 企画展示室
定 員：自由参加
（ただし特別展の観覧券が必要）

『展示解説シート　No.70』
平成24年10月12日発行
福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話　0776-21-0489
Fax　0776-21-1489
担当：印牧信明･松村知也･藤川明宏
印刷／小川印刷

平成24年秋季特別展

大坂の陣と越前勢

―激突 真田幸村 対 越前勢 命をかけた男たちの攻防―

●主催　福井市立郷土歴史博物館
●会場　2階企画展示室
●会期　平成24年10月12日(金)～11月19日(月)
※但し、11月5日は休館

第一章　大坂冬の陣と越前勢

慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康は、同8年征夷大将軍に任官して江戸に幕府を開き、同10年秀忠へ将軍職を譲った。一方大坂城には豊臣秀吉の遺児秀頼がおり、諸大名とは別格の存在として確固たる地位を保っていた。徳川氏が将来にわたり天下を支配し続けるためには、結局のところ豊臣氏の勢力を排除しておく必要があったが、軍事的な行動を起こす状況にはなかったのである。

同19年(1614)7月、徳川方は秀頼が再興した方広寺の鐘銘に「国家安康」「君臣豊楽」とあるのは、家康の諱(いみな)を入れて呪い、豊臣を君として楽しむものとして、豊臣方を問いただした。弁明の使者として片桐且元が駿府へ派遣されたが、大坂帰城後に且元は裏切り者扱いをされ、身の危険を察知して城を退去した。豊臣方は開戦準備のために兵糧米を備蓄し、多数の浪人を集め始めたが、家康は大坂での不穏な動きを受けて、10月に諸大名へ出陣を命じた。そして、11月半ばには20万を超える軍勢で大坂城を包囲した。

同年12月4日、忠直率いる越前勢は、加賀勢など徳川方の将兵とともに大坂城を南方から攻めたが、城方の銃撃により多数の死傷者を出して退いた。城が堅固であることを知った家康は、連日鉄砲･大砲による砲撃を命じ、淀殿など城中の人々を動揺させるとともに、豊臣方の武将真田幸村(信繁)の寝返りを画策した。そして、同月19日に堀を埋めることなどを条件に徳川方と豊臣方は和議に合意した。

第二章　大坂夏の陣図屏風と越前勢の活躍

大坂冬の陣の和議成立後、家康は秀頼に籠城する浪人を召し放つか、大和か伊勢へ移るかを迫った。豊臣方が容認できるはずもなく再戦の道へと進んだ。堀が埋められたことで大坂城は無防備となり、真田幸村(信繁)や後藤基次、毛利勝永など豊臣方の諸将は、城外での戦いを強いられることになった。

夏の陣に動員された兵は徳川方約15万5000、豊臣方約5万5000とされ、両軍の本格的戦闘は、慶長20年(元和元年、1615)5月6日･7日の両日に行われた。忠直率いる越前勢は6日の戦いに加勢しなかったため、家康から昼寝をしていたのかと叱責され、翌日必死の覚悟で奮戦することになる。

最終決戦の7日、天王寺表にまで兵を進めた越前勢は真田隊などと激突した。その模様は「大坂夏の陣図屏風」(右隻)の中央に描かれるなど、激戦が繰り広げられた。結局、多勢に勝る越前兵は真田隊を撃破し、忠直の家臣西尾仁左衛門が勇将幸村を打ち取った。その勢いは留まる所を知らず、本多隊など諸隊の活躍もあり、大坂城へ一番乗りを果したのである。

同日城が炎上する最中、豊臣家の重臣大野治長は秀頼の正室千姫(将軍秀忠の娘)を脱出させ、秀頼親子の助命嘆願を行った。しかしその願いは叶わず、翌8日に秀頼は母淀殿とともに自害し豊臣家は滅亡した。この戦いで両軍は数万の将兵を失い、多くの庶民が犠牲となった。「大坂夏の陣図屏風」(左隻)には逃げまどう人々の姿が描かれ、戦争の悲惨さを今に伝えている。

第三章　真田幸村と松平忠直･忠昌･直政

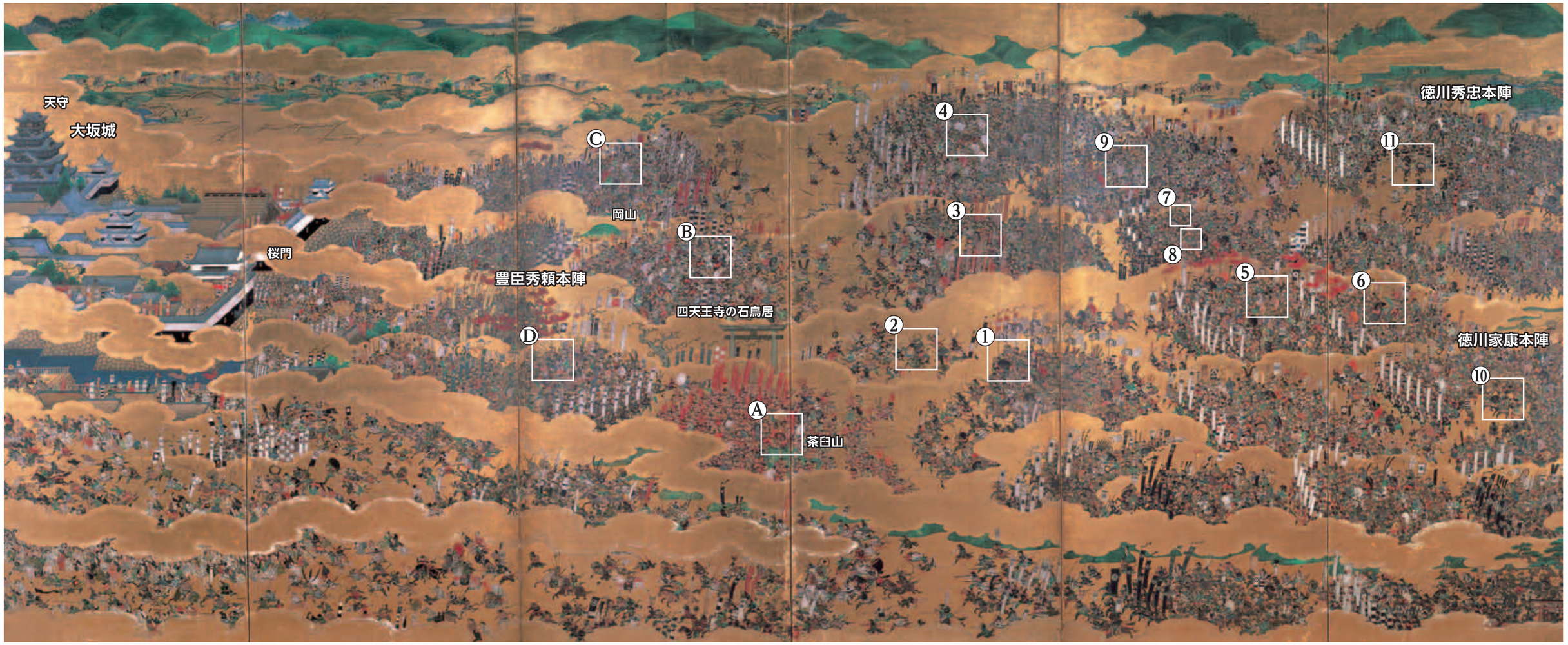
戦国最後かつ最大の戦いであった大坂の陣。特に夏の陣では数的に圧倒的優勢な徳川方の将にすら戦死者が出る中、大坂方最強の真田幸村隊と対峙した越前勢も、将みずから命懸けで戦い、戦功をあげたことが伝わっている。そんな両軍の将たちの戦い振りをほうふつとさせるゆかりの武具を、伝来のエピソードとともに紹介する。

第四章　考古学から見る大坂の陣と大坂城

大坂城址の埋蔵文化財調査は既に長い歴史があり、近世考古学史上、重要な遺跡の一つである。特に豊臣期大坂城は、後の徳川期大坂城との間で断絶があるため、その遺物群が桃山時代の生活様式を示すものとして格好の基準資料ともなっている。

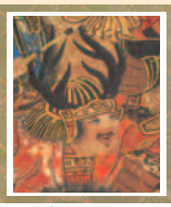
今回紹介するのは豊臣期大坂城三ノ丸の跡地から見つかった堀と、その堀の埋め立ての際に投棄された食器、瓦などである。堀は幾つものブロックに区分された堀障子になっており、これは大坂の陣を前に徳川方との決戦に備えて整備されたものと考えられている。またその埋め戻しに使われた食器等は、「菅平右衛門」と書かれた木簡が共に出土している事から、徳川方の将･藤堂高虎の配下であった菅平右衛門が自刃した慶長19年(1614)末頃に、大坂冬の陣の講和に伴う堀の埋め戻しで廃棄されたと考えられ、大坂の陣会戦時の大坂城の生活を窺うことのできる重要な資料である。

大坂夏の陣図屏風に見る徳川方・豊臣方諸将の布陣と戦い（5月7日の最終決戦）

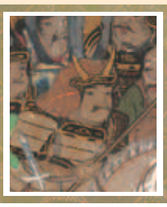


「大坂夏の陣図屏風」（右隻）　大阪城天守閣蔵

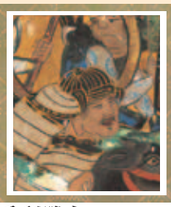
◎屏風に見える豊臣方の武将



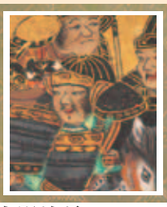
Ⓐ **真田幸村**（1567～1615）
豊臣秀頼に招かれた勇将
越前勢と戦って戦死、家康本陣へ突撃した話は有名。



Ⓒ **大野治房**（???～1615）
秀頼に仕えた大野治長の弟
岡山口で徳川方諸隊と奮戦した。

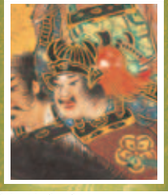


Ⓑ **毛利勝永**（???～1615）
秀頼に招かれた勇将
天王寺口で徳川諸隊を撃破するなどの勢いをみせた。

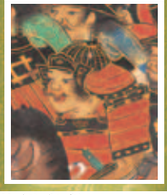


Ⓓ **大野治長**（???～1615）
秀頼に仕えた武将
5月8日に秀頼に従い自害した。

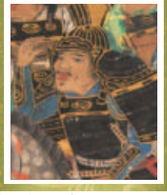
◎屏風に見える徳川方の武将



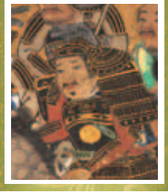
① **松平忠直**（1595～1650）
福井藩2代藩主（68万石）
家康の孫、真田隊と戦い破った。



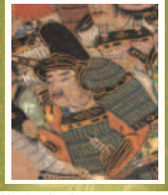
③ **井伊直孝**（1590～1659）
彦根藩2代藩主（15万石）
徳川四天王の一人、井伊直政の次男、赤備えで有名。



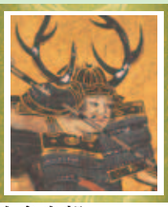
⑤ **伊達政宗**（1567～1636）
仙台藩主（61.5万石）
長女五郎八姫は松平忠輝の室。



⑦ **黒田長政**（1568～1623）
福岡藩主（50.2万石）
冬の陣では江戸に留め置かれた。

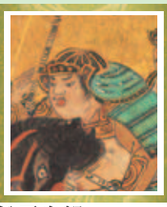


⑨ **藤堂高虎**（1556～1630）
津藩主（22万石）
前日5月6日の八尾・若江の戦いで勝利した。



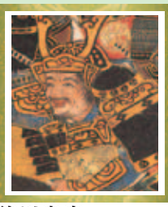
② **本多忠朝**（1582～1615）
上総国大多喜藩主（5万石）
徳川四天王の一人、本多忠勝の次男、毛利隊と戦い戦死。

④ **前田利常**（1593～1658）
加賀藩3代藩主（119.2万石）
岡山口の先鋒を命じられた。



⑥ **松平忠輝**（1592～1683）
高田藩主（45万石）
家康の6男。

⑧ **加藤嘉明**（1563～1631）
松山藩主（20万石）
冬の陣では江戸に留め置かれた。



⑩ **徳川家康**（1542～1616）
江戸幕府初代将軍
大御所として天下の実権を握る。

⑪ **徳川秀忠**（1579～1632）
江戸幕府2代将軍
家康の3男。

解説

この屏風からは、慶長20年（元和元年、1615）5月7日、大坂夏の陣の最終決戦日における徳川方・豊臣方諸将の布陣と戦いの様子がわかる。屏風の上部には岡山口の攻防が見え、中央部には天王寺口の攻防が見える。その中心付近に描かれているのは、真田幸村隊と松平忠直率いる越前勢が激突する場面である。

※大名の領知高は『藩史大事典』『国史大辞典』を参考にした。